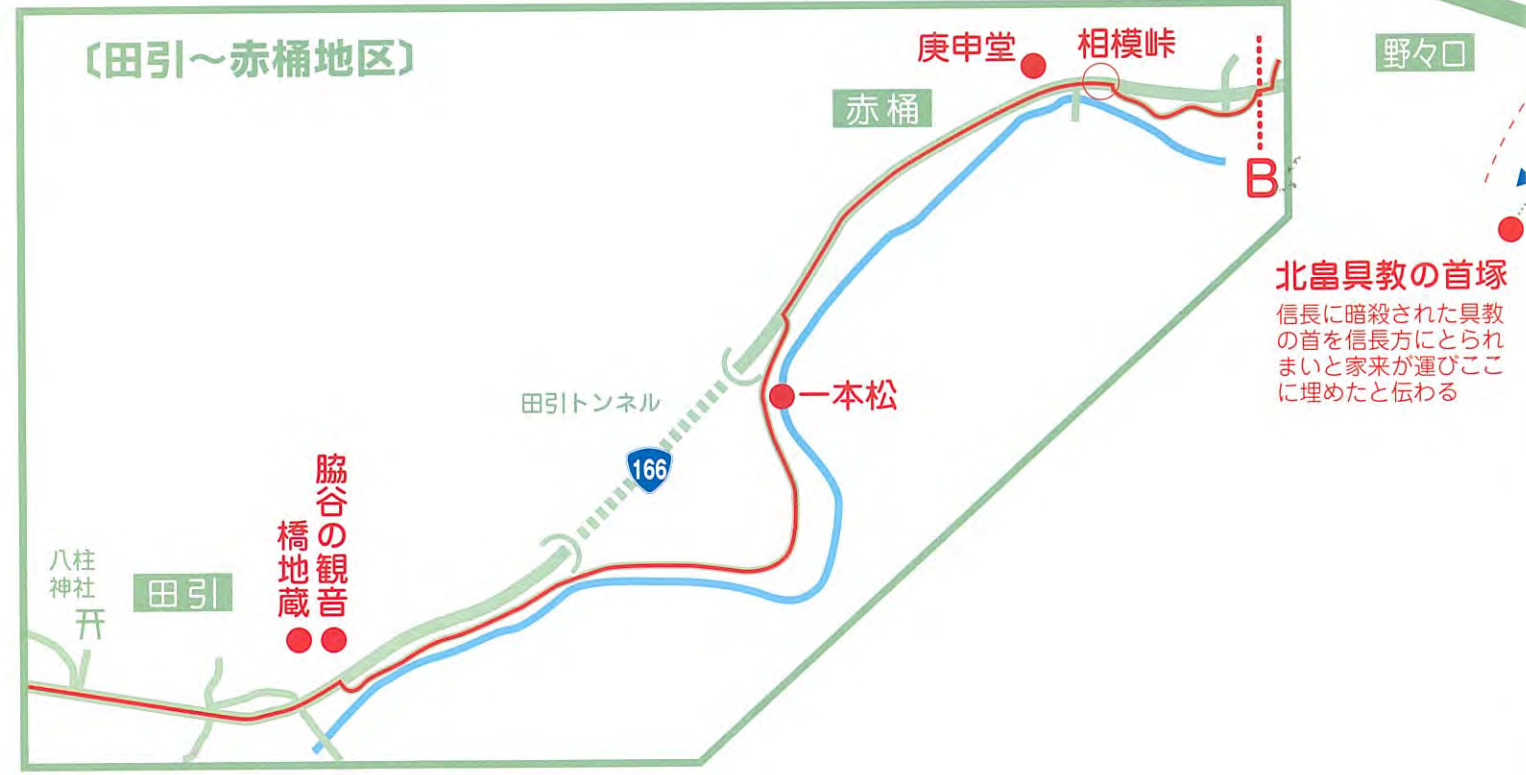
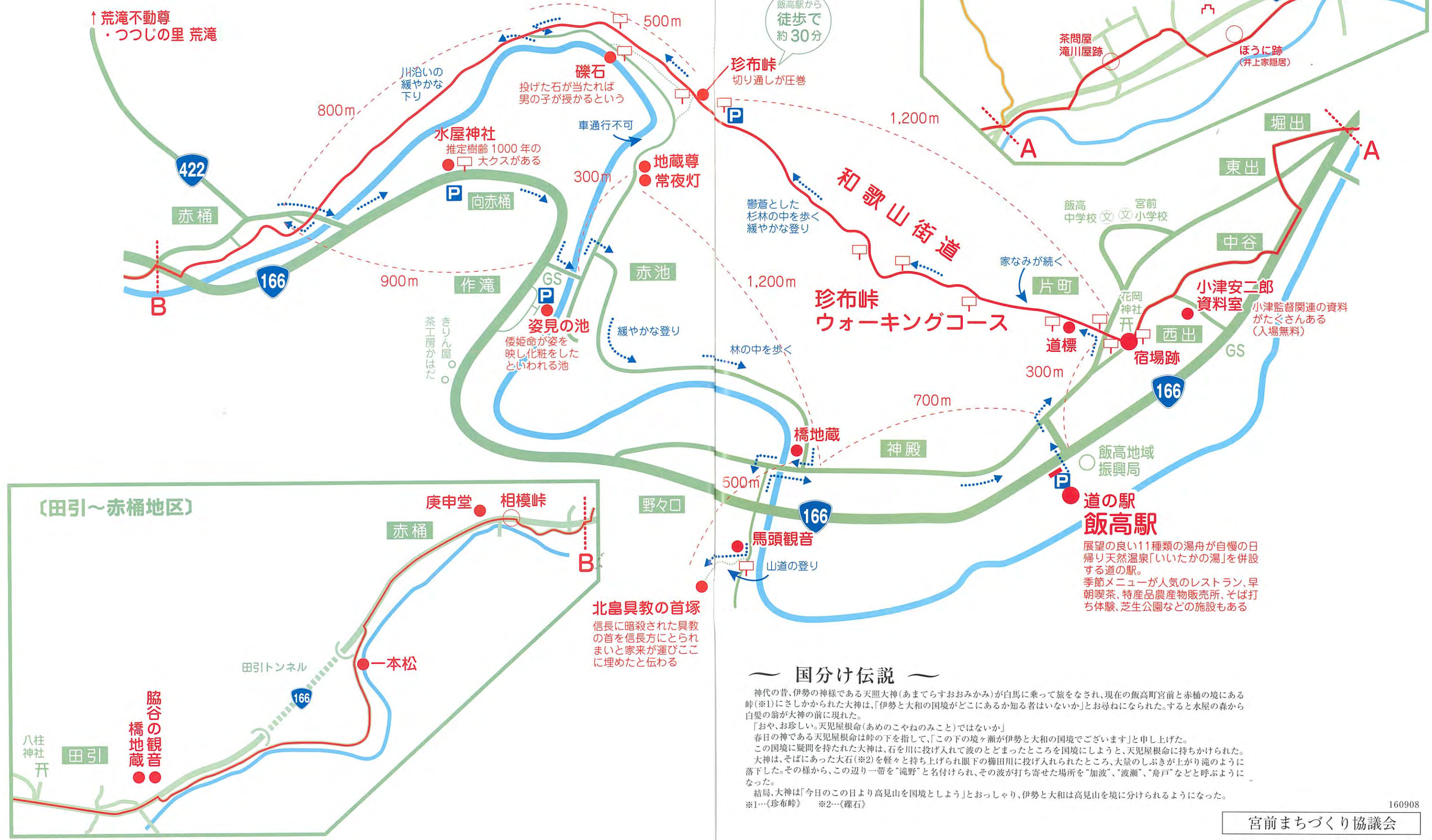


# 和歌山街道宮前宿案内図

和歌山街道 ————  
 おすすめコース ————▶  
 名所・旧跡 ●  
 観光看板 □

※ 距離や時間は目安です

飯高駅から  
徒歩で  
約30分



**和歌山街道**  
**珍布峠**  
**ウォーキングコース**

**道の駅 飯高駅**

展望の良い11種類の湯舟が自慢の日帰り天然温泉「いたかの湯」を併設する道の駅。  
 季節メニューが人気のレストラン、早朝喫茶、特産品農産物販売所、そば打ち体験、芝生公園などの施設もある

## ～ 国分け伝説 ～

神代の昔、伊勢の神様である天照大神(あまてらすおおみかみ)が白馬に乗って旅をなされ、現在の飯高町宮前と赤桶の境にある峠(※1)にさしかかれた大神は、「伊勢と大和の国境がどこにあるか知る者はいないか」とお尋ねになられた。すると水屋の森から白髪の翁が大神の前に現れた。  
 「おや、お珍しい。天見屋根命(あめのこやねのみこと)ではないか」  
 春日の神である天見屋根命は峠の下を指して、「この下の境ヶ瀬が伊勢と大和の国境でございます」と申し上げた。  
 この国境に疑問を持たれた大神は、石を川に投げ入れて波のとどまったところを国境にしようと、天見屋根命に持ちかけられた。大神は、そばにあった大石(※2)を軽々と持ち上げられ眼下の櫛田川に投げ入れられたところ、大量のしぶきが上がり滝のように落下した。その様から、この辺り一帯を「滝野」と名付けられ、その波が打ち寄せた場所を「加波」、「波瀬」、「舟戸」などと呼ぶようになった。  
 結局、大神は「今日のこの日より高見山を国境にしよう」とおっしゃり、伊勢と大和は高見山を境に分けられるようになった。

※1…(珍布峠) ※2…(礫石)